

平成19年度
(2007)
第47回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌日大

【 大会寸評 】

今年度の大会は天候にも恵まれ、予定通り試合が進行した大会でした。特に、今大会会場の帯広の森テニスコートは、広々とした敷地に、観客席をたっぷり確保したテニスコートがあり、更なるコート間には芝生が生えていて、時間的にも空間的にも、十勝らしさにあふれた雰囲気の中で行われました。今年の団体戦は男女とも昨年の雪辱を果たし、男子は札幌藻岩高（27回目）が、女子は札幌日大高（4回目）が優勝を遂げた。また、地方勢では、男子で北空知地区の深川西高（北空知）が3位、女子では函館白百合高が2位に食い込みよく健闘した。個人戦シングルスでは、男子で山下将平（札幌藻岩）が2連覇を遂げ、女子では赤石由衣（札幌日大）が優勝した。他に全国大会に出場する選手は、男子が、工藤康史（札幌日大）、濱口涼太（札幌日大）、田中紀行（札幌日大）、女子は山下ちなみ（札幌日大）、中川香西（札幌清田）、奥村智美（面白百合）の各選手である。特に、山下ちなみ選手は1年生で、今後の活躍が期待される。個人戦ダブルスでは、男子で札幌日大高同士の決勝戦になり、田中・濱口組が工藤・千葉組を制し優勝した。女子は、札幌清田高と札幌日大高の決勝戦となり、赤石・山下組（札幌日大）が澤口・佐藤組を制し優勝した。これらの上位2組が全国大会に出場する。以上、各選手の全国大会での活躍を期待したい。

【 全国大会 】

佐賀市で行われた今年のインターハイは、遠い宿舎に加え、猛暑、台風、雷雨、集中豪雨に見舞われましたが、どうにか試合を消化させ、終了にこぎつけた大会でした。例年に比べ、個人戦の日程が延長され、また雨中戦があったりしたお陰で、昨年より試合中のけいれんや熱中症で搬送される選手は減少しました。しかし、大変だったのは各選手が毎日いかに会場まで辿り着くか、ということでした。今大会はテニス競技の選手宿舎が、全て福岡市内ということで、監督や選手は時間や交通費などで大変な負担を強いられました。本当にお疲れ様でした。

団体戦では、猛暑の中、男子の札幌藻岩高がベスト8入りを果たし、女子の札幌日大高も3回戦まで進出しよく健闘しました。男子個人戦シングルスでは、山下将平（札幌藻岩）が3

回戦に進出、田中（札日大）と工藤（札日大）も初戦を突破し健闘が光りました。また、女子シングルスでは、1年生の山下ちなみ（札日大）が4回戦まで進出しました。中でも3回戦は、大逆転でタイブレークに持ち込んだ末での勝利で、1年生ということから今後の活躍が大いに期待されます。個人戦ダブルスは、女子が2組とも初戦を突破し、赤石・山下（札日大）は3回戦に進出しました。また、男子は濱口・田中組（札日大）も3回戦に進出し健闘しました。今年は、男女団体・個人を通し、北海道勢は大変よく健闘しました。インターハイに出場した全種目で勝ち進んでいる状況は、北海道のテニスのレベルアップを物語っていると思われる。過去にも、限られた種目や選手で上位に進出したことはありましたが、今年のように男女そろって、七かも全種目で好成績を残したのは初めてと思われます。今春の選抜で札幌藻岩がベスト8に進出している点も合わせ、今後の北海道勢の活躍が大いに期待されます。

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

北海道大会で団体戦の優勝が決定したときに味わったのは、今までに一度も味わったことのない喜びと、自分に打ち勝つことができた満足感でした。決勝戦ではいくら自分がリードしていても、全くそんな気はしないものです。優勝が決まるまで、重苦しい緊張感がずっと続いていました。ですから、優勝の瞬間、ホッとして全身の力が抜けていくような感覚になったのを、今でも覚えています。どういう大会でも決勝というものは、それまで自分がどんなに良いプレーをしてきて自信があったとしても、緊張や不安が重くのしかかってくるものです。特に団体戦は、頭の中が真っ白になり、自分のテニスを見失いがちになります。しかし、それを乗り切って手にした優勝の喜びは、相手に勝ったというより、自分に勝った喜びでもあります。自分に勝つということがどれだけ難しいかは、これまでの経験で身に染みてわかっているつもりです。自分に打ち勝つにはやはり普段の練習をどのような気持ちでやっているかだと思います。いつも試合のように緊張感を持って練習することで、試合でも安定したプレーができるようになってくると思います。

試合で勝ち続けること、特に団体戦で勝ち続けることは、とても難しいことです。だからこそ、後輩たちには、来年からも連覇を続けてほしいと思います。そしていつかインターハイ制覇を達成してほしいと思います。

（札幌藻岩高校 主将 山下 将平）

優勝のよろこび

女子 札幌日大高等学校

私たち札幌日本大学高等学校テニス部は、6月19日から21日に行われた北海道高等学校テニス選手権大会に出場し、2年ぶり4回目の優勝を果たしました。昨年は、ライバル校の札幌清田高校に1-2で惜敗し、とても悔しい思いをしました。ですから、新チー

ムになってからは、優勝旗を取り返すことだけを目標に、ハードな練習やトレーニングにも耐え、みんなで一戦一戦頑張ってきました。

前チームは、部員が少なく、大会に出場できなくなる心配もありました。人数がギリギリという事もあり、ケガやカゼなどの体調管理はもちろんの事、自分たちが勝たなくてはいけないというプレッシャーがあり、不安な気持ちでいっぱいでした。新チームになると、部員は一気に17人に増え、練習の幅が広がり、チームがより活気づいて士気も上がっていきました。決勝戦は、函館白百合高校と対戦しました。前チームの時のような緊張感はなく、リラックスして自分たちの力を十分に発揮し、2-0で快勝する事ができました。個人戦シングルス・ダブルスをあわせて、札幌日本大学高等学校は全て優勝しましたが、3年生は最後の団体戦を優勝で飾れたことが何よりもうれしかったです。来年も桜魂一球で3冠目指して頑張りたいと思います。

最後に、ご指導して下さった我妻先生、そして支えて下さったみなさん、ありがとうございました。

(札幌日大高校 主将 赤石 由衣)

全国高校総体（第97回全国高等学校庭球選手権大会） 佐賀

7月29日～8月5日

佐賀県総合運動場庭球場

佐賀市立テニスコート

佐賀県立森林公園テニスコート

男子 個人戦シングルス 優勝

片山 翔（柳川）

女子 個人戦シングルス 優勝

奈良くるみ（大阪産大附）